

② 予測結果の概要

予測結果の概要を表 1.24に示す。

表 1.24(1) 予測結果の概要(堀割区間の存在)

項目	予測結果の概要
地下水流動	(沖積層地下水) 上流側で最大 0.9m の水位上昇, 下流側で最大 1.1m の水位低下が発生する。 また, 0.2m 以上の水位変化は, 上流側で 500m, 下流側で 500m 離れの範囲にまで拡がる。 (洪積層地下水) 上流側・下流側とも, 水位変化は生じない。
粘性土層の 圧密沈下	各土層に作用する増加応力は, 各粘土層の圧密降伏応力以下の値であり, 基本的に沈下の問題は発生しないものと予測される。

表 1.24(2) 予測結果の概要(工事の実施)

項目	予測結果の概要
地下水流動	(沖積層地下水) 上流側で最大 1.0m の水位上昇, 下流側で最大 1.4m の水位低下が発生する。 また, 0.2m 以上の水位変化は, 上流側で 360m, 下流側で 500m 離れの範囲にまで拡がる。 (洪積層地下水) 上流側で最大 0.8m の水位上昇, 下流側で最大 1.2m の水位低下が発生する。 また, 0.2m 以上の水位変化は, 上流側で 360m, 下流側で 480m 離れの範囲にまで拡がる。
粘性土層の 圧密沈下	各土層に作用する増加応力は, 各粘土層の圧密降伏応力以下の値であり, 基本的に沈下の問題は発生しないものと予測される。
地下水質の変化	洪積粘性土層は塑性が低く, 止水壁を引き抜いた場合, 沖積層地下水と洪積層地下水との遮水性が損なわれる可能性が高い。 この場合, 沖積層地下水と洪積層地下水の混合が生じるが, 洪積層地下水には鉄分が多く含まれているため, 沖積層地下水の水質が悪化する可能性があるとして予測される。